

1. エクスカーション

エクスカーションでは、主にモスクワ大学内及び関連施設、その他にツアーとして Kremlin、Kolomenskoye を巡った。モスクワ大学は 1755 年に設立されている非常に歴史の長い大学であり、大学内にはいくつもの博物館が設置されていた。現在の大学校舎は、設立当時からものではなく、1900 年代後半に建設されたものであるが、非常に趣がある建物であった。特に夜間になると、大学がライトアップされるが、その様子はとても素晴らしいものである。モスクワ大学内のエクスカーションでは、モスクワ大学で日本語を専攻している学生が通訳を務めてくれたため、詳細に内容を知ることができた。エクスカーションのみならず、ロシア語で行われる講義や講演では、彼らが通訳を行っていた。校舎に隣接するように設置されているボタニカルガーデンには多くの種類の植物が管理されており、それらは研究の試料としても用いられているということであった。ツアーとして巡った Kremlin、Kolomenskoye についても、どちらも歴史ある建造物や資料が保管されており、ロシアの歴史、文化について知ることができた。

2. 日露大学協会総会

今回の日露学生フォーラムは、日露大学協会総会と並行して開催されていた。そのため、私達学生も総会に参加することができた。総会では日露の各大学での取り組みについて発表が行われた。私自身、被ばく医療について学習している立場であり、医療分野におけるロシアとの関わりというのは想像できていたが、文化的な交流については知らなかった。特に印象に残ったのは、日本に留学した学生の就職支援を大学が率先して行っているというものである。留学だけでは終わらせず、就職まで支援をするのが、日露間の関係を次の段階に引き上げると話されていた。また、この総会では日露の学生が 1 名ずつ、計 2 名が代表として、今回のフォーラムで行うことや学生の立場からの要望について発表を行った。要望としてはピザの取得や単位互換といった点について挙げられた。

3. グループワーク

プラットフォーム構築のために日露学生連盟公式 Web サイトを立ち上げることとなり（次項にて詳説）、その Web に掲載されるコンテンツ及び政府への提言の内容をグループワークでディスカッションすることとなった。グループは、Society、Philology、Culture、Ecology、Science、Medicine、Economics、Politics、Law の全 9 グループであり、私は Medicine のグループであった。各グループには通訳役としてのメンバーが 1 人配置されており、英語が苦手な日本人・ロシア人学生のフォローを行っていた。Medicine のグループでは、医療従事者を目指す二国間の学生が、どのようにすれば、互いの国の医療や文化を知ることができ、より医療と相手国に興味を持つことができるかという視点でディスカッションを行った。メンバーからは多くの意見が出たが、それらをまとめて、医療コンペティションを開催してはどうかという意見になった。その医療コンペティションは、日本とロシアから、そ

れぞれ10大学、各大学からは3人の学生、1人の教員を選出し、日本人学生3人、ロシア人学生3人で1つのチームを作り、さまざまな課題に取り組むというものである。その他にも講義を受けたり、一般の人が興味を持つためにも、ワークショップを開いたりしてはどうかといった意見が出た。講義の内容として、ロシアと日本が経験した原子力災害についての講義を入れてはどうかと提案したところ、ロシアの学生もその重要性について納得していた。フォーラム全体のスケジュールが過密であったことから、グループワークの時間は十分とは言えなかったが、1つのテーマについて、ロシアの学生とディスカッションを行うことができたのは、非常に貴重な経験であった。またグループワークを通して、互いの距離感をより縮めることができた実感した。

4. 日露学生連盟

2017年ウラジオストクでのフォーラム、昨年行われた第一回日露学生フォーラムを経て、日露学生協会の下部組織として、日露学生連盟というものが発足した。この日露学生連盟の主な目的というのは、学生が主体となって日露間の交流を促進することである。前回のフォーラムで問題点として挙げられたのが、学生が互いの国の正しい情報を把握しておらず、また情報を得ようとしても、なかなか得ることができないという点である。それらを踏まえて、日露学生連盟のWebサイトをプラットフォームにしようと、今回のグループワークに至るわけである。もう一つの問題点として、前回のフォーラムで学生連盟が発足したものの、フォーラムに参加した学生が卒業するなどして、継続的な活動ができていなかったということが挙げられていた。当初、今回のフォーラムのプログラムには予定されていなかったが、学生連盟の運営についてミーティングが開催された。そこで、学生連盟に支部を設置し、さらにエリアを細分化し、エリアごとにエリア長及び副エリア長を配置するということが提案された。長崎大学は西日本支部の中国・九州エリアに所属し、長崎大学の他に広島大学が所属している。2大学しかないため、必然的にエリア長もしくは副エリア長となる。広島大学の学生と話し、長崎大学がエリア長、広島大学が副エリア長となった。そのため、私は修士課程の修了まで残り半年ほどしかないが、日露学生連盟及びフォーラムについての引継ぎや広報活動を行っていかねばならない。学生連盟の一員として長崎大学に在籍している間は、積極的に活動を行っていきたいと考えている。

5. 総評

今回のフォーラムの中で、多くの講義を聞く機会があったが、その中でよく話題となったが、若い世代の交流の重要性である。ロシアに関する情報は、普段なかなか触れる機会がないものであり、また情報を得ようとしても、多くのものを得ることができないという状況ではないだろうか。そのためステレオタイプの考えが流布することになると思われるが、私たちのような若い世代が、実際にロシアに行き自分の目で見て、また現地の学生と交流し、直接知ることというのは、ステレオタイプの考えを打破する最も有効な手段であると考

える。今回のような日露学生フォーラムは、まさにそういった機会を提供してくれるものであった。私たちが今後すべきことは、今回で終わらせるのではなく、次の世代に引き継ぎ、日露間の交流を継続し、より強くしていくことだと思う。まだまだ両国の交流は始まったばかりともいえるが、日本とロシアのかけ橋となることができるよう、微力ながらも尽力したいと考えている。